

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2008
課題番号：18606003
研究課題名（和文） ベトナムの日本 ODA 案件実施地域における少数民族の土着知識継承に関する研究
研究課題名（英文） A study on succession of indigenous knowledge in Japanese ODA project sites of Vietnam
研究代表者 新江 利彦（SHINE TOSHIHIKO） 京都大学・地球環境学堂・助教 研究者番号：60418671

研究成果の概要：本研究により、政府開発援助（ODA）と少数民族の土着知識継承の関係について、観念的・イデオロギー的な障害・限界があることが明らかになった。要請国の担当者は土着知識軽視の傾向があり、これが ODA 利権と癒着する当該国の技術者や業者、ドナーのコンサルタントにより助長され、土着知識の喪失を引き起こしている。ODA 案件は土着知識の継承にマイナスの効果を示す傾向があり、要請国及びドナー双方の担当者の意識改革が必要である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,800,000	0	1,800,000
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,600,000	540,000	4,140,000

研究分野：社会開発と文化

科研費の分科・細目：基盤研究（C）（時限）

キーワード：ベトナム、先住民族、土着知識、社会経済開発、ODA

1. 研究開始当初の背景

わたしはベトナムの少数民族政策史を専攻し、「山岳少数民族の貧困は内因的なもの（停滞によるもの）ではなく、外因性によるもの（負の変化によるもの、特に失政によるもの）である」とする仮説に基づき、山岳少数民族が本来持っていた多面的な豊かさを、文字資料や口頭伝承資料を通して明らかにするべく、研究を行っている。特に、1986 年以後、いわゆる「市場経済化」以後のベトナム山岳少数民族の貧困を考えると、ベトナムの市場経済化を支援した多国間及び二国間の政府開発援助（ODA）案件実施地域にお

いて、開発事業が人々の暮らしをどのように変え、または変えなかったかを明らかにすることは極めて重要である。

2. 研究の目的

本研究は、ベトナムの日本政府開発援助（ODA）案件実施地域 3 地点（クアンナム省などカトゥー族居住地、コンツム省などフレイ族居住地、ビントゥアン省などラグライ族居住地）において、社会開発の文化的ベースラインをなす土着知識を文章化し、体系的な史資料となすことを最終目標とする地域研究の一部である。日本のベトナム向け ODA

は1990年代に急増し、今や最大のODA供与対象の一つである。市場経済化を推進するベトナムにおいて、日本のODAは交通と電力に集中し、貧困緩和・生計支援がこれに続く。水力発電や貧困緩和などの案件の多くは、先住の少数民族が住む山岳地域で実施される。世界銀行やアジア開発銀行と同様に、日本のODA執行機関(旧JBICや現JICA)も、環境や社会的弱者・少数者に配慮するセーフガードポリシー(環境社会配慮規定)を持つ。しかし、その規定が配慮すべきベースライン—先住少数民族の社会と文化に関する日本人の先行研究はほとんど存在せず、ベトナム人や欧米人の研究も極めて少ない。開始時において、本研究は、ベトナムの日本ODA案件実施地域において、経済開発や社会開発の過程で、土着知識を継承し続け、しかも貧困化しなかった事例をとりあげてことを主眼とした。フレイ族の事例において、その目的の一部は達成されたが、カトゥー族やラグライ族の事例では住民移転による伝統的自然環境の完全な喪失のため、当該地域での土着知識継承の実態については困難が伴った。

3. 研究の方法

共産党一党独裁の社会主義体制下、極端に言えば警察国家体制下にあるベトナムにおいて、ODA案件実施地域における現地調査をどのようにして可能にするかが、わたしの懸案であった。近年の急速な日越両国の外交的接近によって、ベトナムの日本ODA案件実施地域への立ち入りが可能になり、日本ODA案件が実施された複数の地域において聞き取りを行った。また、当該地域に関する19世紀以前の古文獻(チャム文及び漢文)の解説を行った。このほか、全地球測位システム(GPS)端末で地理的位置の確定を行った。

4. 研究成果

平成18年4月から平成22年3月までに、ベトナムの日本ODA案件実施地域における少数民族の土着知識継承について、全26本の研究論文及び調査ノートを作成した。うちわけは、雑誌掲載論文5本(研究報告番号2, 3, 13, 15, 19)、単行本掲載論文4本(1, 10, 14, 23)、国内及び海外学会報告論文7本(4, 7, 8, 9, 22, 24, 25)、ベトナム語調査資料3本、先住少数民族言語資料3本(占語1本、フレイ語2本)である。フレイ語資料2本(越訳つき)は祝詞、慣習法、民話から成り、土着知識に相当する内容を多く含む。

本研究により、政府開発援助(ODA)と少数民族の土着知識継承の関係について、4つの観念的・イデオロギー的な障害・限界があることが明らかになった。

第1の障害は無責任な要請主義である。いわゆる少数民族地域の中には、自然環境上、

現代的な生産技術をそのまま移転することが著しく困難な地域があり、現地に赴任したODA専門家もそのことを理解しているにも関わらず、要請国担当者の無理解により技術移転がなされ、失敗する事例がある。このような事例では、ODA専門家が土着知識を適正に評価するのに対し、要請国担当者は土着知識を時代遅れと決め付ける傾向がある。(研究報告番号19)。第2の障害は誤った人道主義である。世界銀行・アジア開発銀行や旧国際協力銀行(JBIC)のセーフガードポリシー(環境社会配慮)は被影響住民の移転を伴う開発援助に際し移転住宅整備を条件づける。しかし、被影響住民自身は移転住宅整備を不要不急かつ浪費と認識し、生産条件整備(代替農地整備)を最優先させるべきであると考えている。こうした現地の事情を考慮しない机上の人道主義は、開発被害住民の住環境を著しく悪化させ、援助への依存と土着知識の宗室を引き起こしている(研究報告番号1)。第3の障害は誤った保健衛生キャンペーンである。世界銀行の室内大気汚染対策キャンペーンは、世界銀行以外のODA案件がつくる移転住宅においても、煮炊き・暖房設備(かまど)と居住空間を分ける方向を定着させた。これにより、土着知識に基づく住空間の構築が否定され、人々は熱帯においても極寒の雨季の夜に煮炊きも暖房もない住宅での就寝を迫られ、室内大気汚染からは免れたとしても、他の健康被害が出ている(研究報告番号2, 3)第4の障害は要請国・ドナー双方の担当者の無責任である。日本のODAでは確認されなかったが、世界銀行やアジア開発銀行の援助案件では、伝統コミュニティーハウスの再建と呼ばれる事業が、事実上、鉄筋コンクリートのエセ伝統建築の蔓延を生み、伝統資材による建築の放棄・売却を引き起こしている(研究報告番号25)。

開発事業が人々の暮らしを変えなかった事例では、自然環境条件により農業技術移転が失敗し、その結果として人々の暮らしを変えなかったということが言える。一方、そのような要因と無縁なハコモノ援助(移転住宅整備)においては人々の暮らしに破壊的な変化を及ぼす事例が見られた。

要請国の担当者は土着知識軽視の傾向があり、これがODA利権と癒着する当該国の技術者や業者、ドナーのコンサルタントにより助長され、土着知識の喪失を引き起こしている。ODA案件は土着知識の継承にマイナスの効果を示す傾向があり、要請国及びドナー双方の担当者の意識改革が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

1. 新江利彦 「ベトナムの河川開発と少数民族」『グローバルネット』2007年10月号及び11月号(東京:財団法人地球・人間環境フォーラム)(査読なし)
2. 新江利彦 「ベトナム国内の新聞記事から見たベトナム中部河川開発の現在～証券市場からの資金調達の是非と、再定住事業の困難さ～」『フォーラムMekong』2007年12月号(Vol.8-No.4)及び2008年3月号(Vol.9-No.1)(東京:特定非営利活動法人メコンウォッチ)(査読なし)
3. 新江利彦 「海外開発事業の社会影響・ベトナムの事例～少数民族への影響:ダイニン、アヴオン、ファンリ・ファンティエト～」『学術フロンティア報告書』2008年度号(2009年3月)、110-120頁(東京:東洋大学アジア地域研究センター)(査読なし)
4. SHINE Toshihiko, "The symbolic role of literacy as a standard to distinguish the Raglai from the Cham," *Senri Ethnological Studies*, No. 74 (March, 2009), pp.129-172 (Osaka: National Museum of Ethnology). (査読あり)
5. Trương Văn Môn, "Relationship between the environment and livelihood of ethnic minority groups in Kontum: The Hre as a case study," *Review of Social Science*, No. 9 (2009), pp.76-83 (Ho Chi Minh City: Southern Institute for Sustainable Development - Vietnam Academy of Social Science). (査読あり)

[学会発表] (計 7 件)

1. SHINE Toshihiko, "Montagnards and the Champa Kings: Labor and Land Management as seen in the Documentary and Oral Archives," in the *International Conference: Modernises and Dynamics of Tradition in Vietnam: Anthropological Approaches*, 15-18 December 2007, Binh Chau Resort, Baria-Vung Tau, Vietnam.
2. SHINE Toshihiko, "Illegal border crossing issue of Montagnards from Vietnam's Central Highlands to Cambodia through newspaper articles," in the *International Conference: Mainland Southeast Asia at its Margins: Minority Groups and Borders*, 14-15 March 2008, Center for Khmer Studies, Siem Reap, Cambodia.
3. 新江利彦 「ベトナム開発被害住民の異議申立書～アヴオン事業、ダイニン・ファンリファンティエト事業の事例～」メコン談話室、2008年5月30日。東京:特定非営利活動法人メコンウォッチ事務所。
4. 新江利彦 「チャム族関係史料再考:「大越

史記」庚申版(1800)と二つの「チャム王家年代記」をめぐって」タイ文化圏山地民の歴史研究会、2008年9月21日。東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階会議室。

5. SHINE Toshihiko, "1 land owner, 1 surname of Sino-Vietnamese: A hypothesis on new family registry system to manage land-tenure in matrilineal Cham area under Minh-Mang period," in The 3rd International Symposium on Vietnamese Study, 3-5 December 2008, My Dinh Conference Hall, Hanoi, Vietnam.
6. SHINE Toshihiko, "The Kur-Jawa in the Raglai literature: Malay images through lens of Montagnards in Vietnam's Central Highlands," in the *International Seminar on Historical Relation between Indochina and the Malay World*, 15 October 2009, University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia.
7. SHINE Toshihiko, Nguyễn Thế Sơn, "Field works on occupational and traditional change in mountain villages according to urban development: Case study from Katu's "Guol" architecture in Central Vietnam," in the Society of Vietnam's Socio-Cultural Studies Monthly meeting, 19 December 2009 (ベトナム社会文化研究会2009年12月例会), Toyo University, Tokyo, Japan.

[図書] (計 4 件)

1. SHINE Toshihiko, "Resettlement programs in Vietnam's Central Highlands: Current status and problems," in *TUFS-SOAS Graduate Students Symposium Proceedings*, pp.101-120. (Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies, 2007).
2. SHINE Toshihiko, "Development History of Vietnam's Central Highlands and Montagnards: A story of Mr. K'Phèng, a coffee millionaire," in *Coffee in Vietnam's Central Highlands*. (Ho Chi Minh City: Ho Chi Minh City National University Press, 2008)
3. 新江利彦 「ベトナム中部高原民族誌」『ベトナム文化人類学文献解題:日本からの視点』102-116頁。(東京:風響社、2009年)
4. ハ・ティ・トゥイ・ガー、新江利彦 「ベトナム中部高原コンツム省プレー族の銅鑼について」『アジア社会の発展と変容』245-257頁。(東京:東洋大学アジア地域研究センター、2010年)。
6. 研究組織
(1)研究代表者
新江利彦 (SHINE Toshihiko)

京都大学・地球環境学堂・助教
(前・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー)
研究者番号：60418671

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

1. タイン・ファン (Thành Phần)
チャム族
Male, Ph.D. in Anthropology (University of Saint Petersburg, Russia), Associate Professor, Faculty of Anthropology, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University Ho Chi Minh City, Vietnam.
2. ホヴェン・ニエクダム (H'Wen Niê Kdăm)
エデ族
Female, M.A. in Economics (Hanoi University of Agriculture, Vietnam), Lecturer, Faculty of Economics, Tay Nguyen University, Vietnam.
3. ドーク・ヴティー (Dork Vuthy)
クメール族
Male, Ph.D. in Anthropology (University of Tsukuba, Japan), Lecturer, Faculty of Social Sciences and Humanities, Phnom Penh Royal University, Cambodia.
4. チュオン・ヴァン・モン (Truong Văn Môn)
チャム族
Male, M.A. in History (University of Malaya, Malaysia), Lecturer, Faculty of Anthropology, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University Ho Chi Minh City, Vietnam.
5. ラ・ヴィン・ハイ・ハー (La Vĩnh Hải Hà)
ベト族 (フエ出身)
Male, Ph.D. in Forestry (Kyushu University, Japan), Lecturer, Faculty of Forestry, Nong Lam University Ho Chi Minh City, Vietnam.
6. ブイ・ティ・ビク・ラン (Bùi Thị Bích Lan)
ベト族 (ハノイ出身)
Female, M.A. in Anthropology (Institute of Anthropology, Vietnam), Researcher, Institute of Anthropology - Vietnam Academy of Social Science, Hanoi City, Vietnam.
7. ハ・ティ・トゥイ・ガー (Hà Thị Thúy Nga)
フレー族
Female, Head of the Red Cross Office, Son Nham Commune, Son Ha District, Quang Ngai Province, Vietnam.